

文部省選定
第39回芸術祭大賞受賞

教育映画祭最優秀作品賞
優秀映画鑑賞会推薦

伝統工芸の名匠

芹沢銈介の美の世界



作 品 名：シリーズ〈伝統工芸の名匠〉

「芹沢銈介の美の世界」

(35%カラー／35分)

企 画 製 作：財団法人ポーラ伝統文化振興財団

製 作 協 力：株式会社桜映画社

監 修：北村哲郎

製作スタッフ：製	作・村山 和雄	照	明・森 準蔵
	脚本・監督・村山 英治		浅見 良二
	撮 影・村山 和雄		本橋 俊男
	金山 富男	音	楽・山内 忠
編	集・沼沢 梅子	ナレーター・宇野	重吉

協	力：静岡市立芹沢銈介美術館	日本民芸館
	大原美術館 外村吉之介	金子量重
	芹沢染紙研究所 株ざくろ	小川竜彦
	中央公論社「芹沢銈介全集」	四本貴資

資 料 提 供：日本近代文学館 毎日新聞社
NET朝日 石川光陽



芹沢銈介は、明治28年静岡の呉服商の次男として生れた。明治の末から大正初期にかけて『大正デモクラシー』の新風そよぐ時代に青春期を過ごし、芸術を志した。そして青年は、やがて『工芸』の道へと歩みだす。その行く手を指し示したのは、民芸運動の指導者・柳宗悦^{ひなかつ}であり、沖縄の型染『琉球紅型^{びんがた}』である。

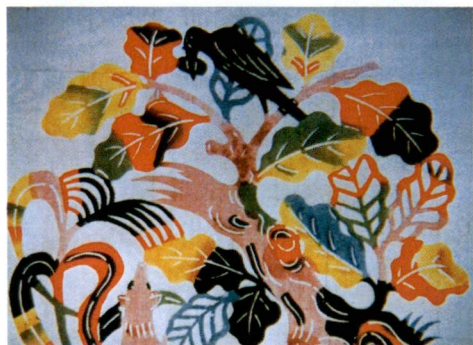
昭和初期の大不況や、やがて始まる長い戦争の時代に耐えながらも、ひたすら作品を醇化させた。そして戦後、ようやく飢餓状態を脱した昭和25～30年頃一挙に大輪の花を咲かせたのである。

作品は多種多彩。型染物はもちろん、型絵染を生かした装丁、挿画、多くの生活工芸品のデザインにまで及ぶ。模様の多彩さ、色彩の豊かさ、どれも比類ない輝きに満ちている。

晩年、彼はよく冗談めかして言った「コモを背負ってね。ズタ袋を持って、そして家出をしたいと思う。面白いですね。そういう気持ちで自分を鍛えていったら面白いと思う」美の前には気持を純粹にし、心と技を磨き続けた人は、昭和59年4月天界に旅立っていった。

芹沢銈介・年譜

- 明治28年 5月13日静岡の呉服商の家に生れる。
- 大正5年 東京高等工業学校図案科卒業。
- 大正6年 静岡県立静岡工業試験場に就職。
- 大正14年 柳宗悦の論文『工芸の道』に感動。一大転機となる。
- 昭和6年 雑誌『工芸』創刊。表紙を1年間受け持つ。
- 昭和13年 柳宗悦などと共に沖縄に渡り、紅型染に魅せられる。
- 昭和21年 「萌木会」創設、第一回展開催。
- 昭和29年 「このはな会」第1回展。以後毎年開催。
- 昭和31年 重要無形文化財「型絵染」技術保持者に認定される。
- 昭和38年 大原美術館・芹沢館完成。
- 昭和41年 紫綬褒章を受章
- 昭和43年 ロスアンジェルスとヴァンクーヴァーで個展。
- 昭和51年 文化功労者。パリ国立グラン・パレで芹沢銈介展開催。
- 昭和56年 静岡市立芹沢銈介美術館が開館。
- 昭和58年 フランス政府より芸術功労勲章を贈られる。
- 昭和59年 4月5日逝去（享年88歳）



かたえぞ 型絵染めについて

わが国の型紙を用いる模様染めは、^{ひんがた}紅型をはじめ小紋型、中形、あるいは田舎の染めなど各種の手法がある。

型染めは、小刀で模様を彫り抜いた型紙を用いて反復して糊置きし染めるが、その技法や芸術性について研究工夫し、型染めにおける近代的表現を確立してきた工芸作家の活動があり、この領域を「型絵染め」としている。

型絵染めは、模様の創作、型紙の彫り、糊置き、染めまでの工程を作者が一貫して行う。これにより、作者の創意工夫が加えられ、形式にはとらわれない自由な表現が可能となり、伝統技法をふまえた上で更に新しい展開をみせた。

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

<http://www.polaculture.or.jp>

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-2-10 ポーラ第2五反田ビル

TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597